

# 新入生挨拶

日ごとに温かさを増し、春の訪れを感じる今日の良き日、私たち新入生は日本赤十字秋田看護大学大学院の入学式を迎えることができました。

昨今の新型コロナウイルス感染拡大により、国内外で様々な対応がとられている状況にありますが、本日、私たち新入生のため、このように入学式を挙げていただき、誠にありがとうございます。学長先生をはじめ、諸先生方には、心より御礼申し上げます。また、温かい励ましのお言葉、歓迎のお言葉を頂き、新入生一同、身の引き締まる思いでおります。

助産師になり地域に貢献したいという目標に向かい、学部生時代から親しみのある秋田県で、そして高度な助産技術や知識を身に付けることができる環境で学べることを嬉しく思います。

近年、児童虐待による痛ましい事件がメディアで大きく取り上げられています。多くの小さな命が傷つき、失われている現状に、世間は主な加害者となることの多い母親を責め、非難します。児童虐待には、子どもを取り巻く様々な状況があるとはいえ、当事者の子どもだけでなく家族としての母親を守っていくために、母親の産前から産後まで関わっていく助産師は今後さらに重要な役割を担うと考えます。そのためには、様々な視点から対象を捉え、対象が持つ出産や育児に対する思いを大切に、妊娠や出産だけでなく、家族が地域で生活していく力を持つことができるようなサポートが行える助産師を目指します。

自分の目指す助産師になるため、目標を叶えるという強い気持ちと、支えてくださる方々への感謝の気持ちを常に持ち続け、本大学院で知識・技術を学ぶだけでなく、一人の人間として成長していきたいと考えております。

学長先生、諸先生方、職員の皆さま、未熟な私たちではありますが、学部生時代よりも一層努力を致しますので、温かいご指導のほどよろしくお願い致します。

私たち新入生一同は、日本赤十字秋田看護大学大学院の学生としての誇りを持ち、これからの助産分野の一端を担うべく精進してまいりますことをお誓い申し上げ、挨拶と致します。

令和2年4月7日

日本赤十字秋田看護大学大学院 新入生代表 寺口 萌